

# 河川における外来種対策事例研究

## A study of alien species in riparian habitats

生態系グループ 研究員 白尾 豪宏  
 生態系グループ 技術参与 前村 良雄  
 水辺・まちづくりグループ 研究員 阿部 充  
 生態系グループ 研究員 都築 隆禎

### 1. はじめに

近年、河川に侵入した侵略的な外来種がさまざまな影響・被害を引き起こしている。有効で効率的な対策を進めていくためには、外来種の新たな侵入や、これらが及ぼす影響・被害、またはその恐れの影響、駆除対策方法に関する最新知見等の情報を逐次収集し、整理した知見を実管理に活用していく必要がある。そこで、本研究においては、河川の外来種に関する最新情報の収集・整理を行うとともに、これらを取りまとめた書籍の出版・配布、ならびにさまざまな主体が河川の外来植物、外来魚対策に活用可能な手引き書を策定した。

### 2. 外来種対策の事例収集整理

外来種対策の事例収集は、行政が主催・後援する河川における外来種の除去作業への参加・取材、外来種対策の実施主体への取材、各種シンポジウムや情報交換会への参加等により、得られた情報を整理した。

この内、主な事例研究内容について以下に示す。

#### 2-1 ナルトサワギク除去作業（吉野川）

平成22年10月17日（土）において、徳島河川国道事務所が吉野川の中州に繁茂する特定外来生物ナルトサワギクを対象とした駆除対策会に参加し、駆除方法に関する知見を得た。本駆除対策会においては、事務所が準備する漁船にて、参加者が中州に渡って行うもので、副所長の挨拶、講師によるレクチャーの後、約1時間の駆除作業と搬出を行うものである。



写真-1 ナルトサワギク

駆除作業に参加して、海浜植生に圧迫を与えていること、砂地に生育する本種は引き抜きが容易なこと、茎が根元より木質化しており株が大きなことなどを実感した。また、講師の先生からは、本種が年間を通じて開花・結実させること、有毒植物であり、家畜に有毒性を生じるだけでなく、人に対しても発癌性を有することなどを伺った。このため、回収後は袋に包んで密封の上搬出すること、駆除作業時には長袖、軍手を着用すること、牧場などの周辺に生育させてはならないことなどの知見を得た。

#### 2-2 バス類駆除作業（利根川水系鎗川）

平成23年1月18日（火）において、群馬県水産試験場、烏川漁業協同組合が実施する特定外来生物ブルーギル、オオクチバス、コクチバスを対象とした駆除対策会に参加し、冬季の駆除対策に関する知見を得た。本駆除対策会においては、駆除作業の主体の他、新聞社、NHKなどのメディアへ予め声がかけており、対策の状況がテレビで報道されるなどの取材も同時に行われた。



写真-2 駆除作業とNHKの取材

駆除対策は、約30mのブロックネット（個体の封じ込め）、背負い式電気ショッカー2台、捕獲者6名により約1時間の駆除作業として行われた。結果はオオクチバス4尾、ブルーギル2尾にとどまったが、この取り組みはNHKニュースに報道されるとともに、新聞記事ともなり、マスメディアとの連携による情報発信の有効性に関する知見を得た。また、主催者側の「鎗川には外来魚は要らない」とした思いを感じた。

### 3. 「改訂版 河川における外来種対の考え方とその事例」の出版

当センターでは、平成10年より外来種影響・対策研究会（座長 鷲谷いづみ教授 東京大学）を発足し、侵略的外来種への対応方策の検討や外来種対策に関する書籍の監修・出版を行ってきた。今年度においては、同研究会の監修、ならびに国土交通省河川環境課の編集協力により、以下に示す2冊の書籍を出版した。

河川における侵略的な外来種に関する知見の集積と情報の発信を目的に、「改訂版 河川における外来種対策の考え方とその事例 第2版」を発行し、全国の河川管理者、自治体、図書館への配布を行った（宝くじ助成金）。本書籍は過去に発行された第一版の内容に加え、新たにオオハongoソウやオオキンケイギク、オオササモなどの生態情報や最新の対策事例について、新たな現地取材や学術論文の発表内容に基づき大幅な改定となっている。



写真-3  
改訂版 河川における外来種対策の考え方とその事例  
-主な侵略的外来種の影響と対策- 第2版

また、主に行政が関わった外来種対策に関する取り組みを国際的にアピールする目的で、同事例集より国際的にも侵略性の高い外来魚2種（ブルーギル、オオクチバス）、外来植物7種（ハリエンジュ、アレチウリ、セイタカアワダチソウ、シナダレスズメガヤ、ホテイ

アオイ）を選定し、国外の方にも分かりやすい英語抄訳版として再構成した。これらの監修作業にあたっては、基礎編、対策編、植物編を鷲谷先生に、魚類編を細谷先生に協力いただいた。出版した書籍は平成22年度10月には名古屋で開催されたCOP10（第10回生物多様性条約国連絡会議）において、国土交通省の出展ブースにて来場者に配布した。

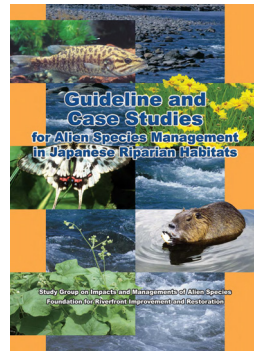


写真-4  
Guideline and Case Studies for Alien Species Management in Japanese Riparian Habitats

### 4. 河川における外来種対策検討

平成22年度において、既往業務により議論が進められてきた「河川における外来植物対策の手引き（案）」ならびに「河川において適用可能な外来魚対策の手引き（案）」を学識者により組織した検討会に諮り策定した（図-1）。なお、これらの手引き（案）は、現在見直し作業が行われている最中である。

### 5. おわりに

河川において侵略的外来種による影響・被害は、治水、利水、生態系へ広範に及んでいる。これらに対し、官学民の連携により、保全の対象や目標を明確にした順応的な取り組みが肝要であると感じた。



図-1  
「河川における外来植物対策の手引き（案）」、「河川において適用可能な外来魚対策の手引き（案）」の策定経緯